

剣道の歴史と世界剣道選手権大会

渡辺康介

目次

1. 剣道の歴史
2. 剣道世界選手権大会
3. まとめ

1. 剣道の歴史

剣道は日本において創造され、日本民族固有の尊い経験を通して日本の歴史と共に高度に発達したものである。ここでは剣道の歴史についていくつかの年代に分けて説明していこうと思う。

現在の剣道は、争鬪の手段として相手を攻撃し、抹殺するものではなく、競技者相互は協力して剣道を成立させ、剣道をおこなうことに楽しみをもち、共にその高い技術をあくまで追求してゆき、なお、合理的に試合規則ならびに審判要領を規定しているところの遺存スポーツである。

① 日本初期

大化の改新の頃から大陸文化の輸入とともに、剣道も支那式剣術によって、やや組織立ってきたものである。

また、この時代より馬上の戦鬪が大陸からの影響により起こり、後3年の役頃から馬により長距離を遠征して戦うようになったことで、その剣法も変わり、それに要する刀剣も直刀平造りから反刀鎬造りに変わったのである。また、この時代には長い柄をつけて薙ぎ、突きに有利な薙刀も出現した。

鎌倉時代が開かれるにおよび、勤儉尚武の精神をもって武術を奨励したので、武人は競って武技を錬り、剣道が盛運に行われていたが、この時代は、武技の向上はもちろん、宗教との関係も生じ、精神的方面が大いに強調されたと考えられる。

② 室町時代

室町時代となり、戦国時代、いわゆる乱世が続いたことで自主自衛のため、武人だけでなく、各階級においても武術がなければ安心して生きてはいけなかった。

この時代から師弟の関係ができ、流派が生まれ、しかも、武術は、「剣術」「柔術」「槍術」等になってきた。なお、この時代には、鎧兜に身を固めての戦場剣道と素肌において剣理を極める流派剣道との二方面の研究が盛んになった。

③ 江戸時代

江戸時代となり、江戸中期には、武士としてのたしなみの剣道を重視し、武術としてではなく心身の鍛錬を狙いとする考えが出てきた。

宝暦、明和の頃、一刀流の中西忠造や直新影流の長沼四郎左衛門等は、面、小手、胴を工夫し防具を作り、割竹をもって竹刀を考案し、胴具を使用しての竹刀打ちの剣道を創造した。

④ 明治時代以降

明治の初めには、欧米文化の模倣に汲々として、日本古来のものを研究する余地がなくなり、その廃刀令が出たことにより、剣道は全く衰微するに至った。

明治10年頃より剣道が日本国民の教育の為に適当な体育運動であると考えられ、始めに警視庁でこれを採用し、それに続き明治28年に武徳会が組織された。明治44年には、剣道は体育の

一部として中等学校に正課として採用され、大正元年に辻真平をはじめとする 5 氏が主査となって、約 200 もある流派を統一する目的をもって大日本帝国剣道形が制定された。

昭和 11 年には中学校の「学校剣道教授要目」が制定され、その後、青年学校においても正課となり、小学校においてさえも昭和 14 年に準正課となり、さらに昭和 16 年に国民学校令が発せられるにあたり、正課として課せられるに至った。

⑤ 第二次世界大戦後

第二次世界大戦直後、剣道が軍事訓練の一部として重んぜられていたとの理由から、他の武道とともに、剣道は学校体育の教材から除去されたので、これを補うために、剣道の運動形式による日本的な、格技スポーツが要望され、剣道愛好者によって、新しい競技を新しく工夫考案し、各都道府県にしない競技連盟が結成され、それらの総意によって、昭和 25 年 3 月 5 日に全日本しない競技連盟が結成されるに至った。昭和 27 年 4 月 10 日には、学校教材として、中学校、高等学校及び大学に採用することになった。

一方、民間において剣道愛好家が集まり、スポーツとしての性格の剣道を作り上げようとする努力がはらわれ、次第にその主旨に賛同する愛好者が増加し、各都道府県に剣道連盟を結成するに至り、その結果、昭和 27 年 10 月 14 日に各都道府県連盟を一丸とした、全日本剣道連盟が新しく結成されるに至った。

文部省は文部大臣の設問機関である保健体育審議会で剣道の実施について設問した結果として、同審議会より「新しい格技スポーツとしてのないようを備えるならば、学校において実施することを認めてもよい」という意味の答申を得たのである。その後、昭和 28 年 7 月 7 日に、高等学校及び大学で実施するようになった。

このようにして剣道は各時代によって形を変えながら今日の剣道として出来上がってきたことがわかる。

2. 世界剣道選手権大会

剣道にも世界剣道選手権大会があり、今日の剣道はたくさんの世界の国々で活発に行われている。

剣道世界選手権大会が初めて行われたのは、国際剣道連盟が設立された1970年。第1回大会の参加国数は17ヵ国しかなかった。今年日本で開催された第16回大会では40ヵ国を超える国が参加した。世界一を決める大会ではあるが、剣道発展途上国も多く、特に女子の部は歴史も浅いため、実際には前日本剣道選手権大会や全国警察剣道選手権大会の方がレベルが高いとされている。

しかし、近年では韓国やアメリカの剣道のレベルが上がりその中でも韓国は強い。他にもブラジルやチャイニーズ台北、ハンガリーなどもレベルを上げてきている。

3. まとめ

今回剣道の歴史、世界剣道選手権大会について、剣道は時代によって色々な形、姿を変えながら今日の剣道というスポーツになったことがわかる。世界でもこれから多くの国々に「KENDO」を知ってもらい、ますます剣道愛好家が増えることを期待している。

これからの剣道がどのように変わっていくのか楽しみである。

参考文献

- 1 全日本剣道連盟「剣道の歴史 | 剣道を知る | 全日本剣道連盟」
<<http://www.kendo.or.jp/kendo/history/>>2015/11/20
- 2 村上貞次『剣道入門』（愛隆堂、昭和42年）